

HOT NEWS OF JAPANESE NUTRITION/HEALTH INDUSTRY SEPTEMBER 16-30, 2005

乳業最大手の明治乳業から大豆飲料が発売された。牛乳市場は毎年縮小しており、2000年～2004年の間に市場は11%も縮小した。消費者の牛乳離れは確実に進んでいるようである。一方、豆乳市場は、2000年～2004年で倍増している。規模から見れば豆乳市場は牛乳市場の4%足らずであるが、2003年の豆乳生産量は既に1983年の豆乳ブーム時を抜いている。イノベーションの普及理論に基づけば、総需要の5%を越えた時点で市場は急速に拡大していく。仮に豆乳の総需要を牛乳と同程度と仮定すれば、いよいよ本格的な成長が期待できる段階と考えられる。その兆しはいくつか見られる。今年4月、大塚製薬は、中国の豆乳トップ企業「徐州維維食品飲料有限公司」へ資本参加した。また、キッコーマンは紀文グループと資本提携をした。これらは、将来に対する布石であろう。また、乳業ではないがヤクルトや野菜系飲料のトップ企業であるカゴメも既に豆乳商品を発売している。一過性のブームとしてではなく、本格的な健康飲料としての豆乳、および大豆製品(大豆ペプチドなど)は目の離せない素材である。

NEW PRODUCTS

明治乳業、宅配専用大豆飲料「こだわり大豆」を発売

明治乳業は、10月1日より、宅配専用商品の大豆飲料「こだわり大豆」を発売する。明治乳業では、同社独自の大豆特有の豆臭さ・青臭さを取り除く技術「こだわりスッキリ」製法を採用した。1本(100ml)で普通牛乳(100ml)と同量のカルシウム(114mg)を摂取でき、大豆をまるごと使用しているので、豆乳には含まれない食物繊維も摂取できる。また、他社にはない、ビン入り、チルド大豆飲料として、新鮮なおいしさを味わうことができる。同社では、健康機能を高めた宅配専用商品の開発、ならびに「健康」「栄養」に関する情報サービスの向上に注力し、宅配事業のさらなる拡大を目指す。(9月16日 明治乳業プレスリリース)



常盤薬品、おなかの調子に気をつけている人向け特保ドリンク「スット」を発売

ノエビアグループの常盤薬品工業は、「おなかの調子に気をつけている方」に向けた特定保健用食品のドリンク「スット」を9月26日より全国のスーパーなどの量販店で発売する。同商品(100mL)には、大豆オリゴ糖3g、食物繊維5.3gが配合されている。(9月20日 常盤薬品工業プレスリリース)

ヤクルト、はっ酵乳配合の野菜・果実混合飲料「きになる野菜 ヨーグルトテイスト」を発売

株式会社ヤクルト本社では、野菜・果実混合飲料「きになる野菜」のシリーズ品として、はっ酵乳配合の「きになる野菜 ヨーグルトテイスト」を10月3日より、全国のスーパーやコンビニなどで新発売する。近年健康志向が高まり、おいしく手軽に野菜を摂取できる、野菜汁と果汁をミックスした混合飲料の更なる成長が見込まれる中、ヤクルトでは、野菜汁と果汁に、同社独自のはっ酵技術を駆使したヨーグルトを配合した。同商品には、野菜汁50%、果汁45%、はっ酵乳5%を配合し、11種類の野菜(トマト、にんじん、ほうれん草、ピーマン、アスパラガス、ブロッコリー、パセリ、ラディッシュ、小松菜、クレソン、レタス)と3種類の果汁(りんご、オレンジ、レモン)、当社独自のはっ酵乳をバランス良くミックスしている。(9月20日 ヤクルト本社プレスリリース)



カゴメ、17種類の野菜350gを使用した「野菜一日これ一本のむぜりー」を発売

カゴメ株式会社は、2004年8月に発売した“野菜一日これ一本”シリーズより、「野菜一日これ一本のむぜりー」を10月4日より新発売する。「野菜一日これ一本のむぜりー」には他のシリーズ商品と同様に、1本に17種類・350gの野菜を使用し、さらに5種類のフルーツを加えすっきり飲みやすいゼリー飲料に仕上げた。また、食物繊維も6g含んでおり、不足しがちな野菜と食物繊維を手軽に補給できる。(9月20日 カゴメプレスリリース)



伊藤園、天然ルチンを豊富に含む韃靼そばを100%使用した「韃靼純そば茶」を発売

株式会社伊藤園は、天然ルチンを豊富に含む韃靼(だつたん)そばの実を100%使用したそば茶飲料「韃靼純そば茶」を9月26日より発売する。韃靼(だつたん)そばは、「苦蕎麦(にがそば)」とも呼ばれ、茎・葉・実とも日本そばより一回り小さく、寒気に強く、中国・モンゴル・ネパールなど高度2000メートル以上の山岳地帯で栽培されている。そばの実にはポリフェノールの一種であるルチンが含まれており、近年、その"さらさら効果"が注目を集めているが、韃靼そばは、日本で栽培されているそば(日本そば)よりも、天然ルチンを約100倍多く含んでいるといわれている。伊藤園ではこれまで、韃靼そばと日本そばの2種類のそばの実を原料としたそば茶飲料を販売していたが、今回発売する「韃靼純そば茶」は、韃靼そばの実を100%使用する。また、韃靼そばの実を原料から焙煎まで一貫管理して製造する独自技術(方法特許3668486)と高温抽出によって、豊かな香りを引き出し、香料などの添加物を一切使用することなく、そば茶の特徴である「香ばしいおいしさ」を実現した。(9月21日 伊藤園プレスリリース)



敷島製パン、1食で食物繊維6gを無理なく摂れる菓子パン3品を発売

敷島製パンは、食品・飲料分野の複数企業が共同で立ち上げた「食物せんいプロジェクト」に参画し、同プロジェクトの参加商品として、パン・菓子2アイテムを9月27日に関東・中部・関西地区で、1アイテムを11月1日に関西地区で発売する。今回発売するパン・菓子は、とうもろこし由来の食物繊維に健康イメージの素材を合わせ、おいしく食べられるよう開発した「メープル&レーズン」、「おからのケーキ チョコバナナ」、



「おからのケーキ フルーツ」の3アイテム。各商品パッケージには同プロジェクト共通ロゴマークを表記して、食物繊維を6g以上/個を含有していることを積極的にアピールする。(9月21日 敷島製パンプレスリリース)

カネボウフーズ、乳酸菌配合のタブレット状ガム「生の乳酸菌で噛む」3アイテムを発売

カネボウフーズ株式会社は、従来、ガムに含めることが困難であった乳酸菌を配合した「生の乳酸菌で噛む」を開発、3アイテム(「レモンハーブ」・「チャイナハーブ」・「シソミント」)を10月下旬よりTV通販にて発売する。また、年内を目途に、一部ドラッグストアでの発売を予定している。本商品は、スペインを本拠地とする世界最



大のガムベースサプライヤーである、カフォサ・ガム社(本社:バルセロナ市)が開発した、画期的な粉末状ガム基材 AIG を活用して、熱や水分の影響を受けやすい乳酸菌などの機能性素材の配合を実現したもので、「カネボウ 噛む健康シリーズ」の第一弾商品として発売される。「生の乳酸菌で噛む」は、小粒のタブレット状のガムで、2粒あたりおよそ1億個の乳酸菌を生のままガム基材に閉じこめることに初めて成功した商品。ガムを咀嚼することで、口の中で生の乳酸菌が広がり、口の中全体をケアすることができる。なお、AIG については、住商食品株式会社が日本における独占輸入販売を行い、カネボウフーズは、住商食品が開拓した顧客の商品コンセプトに従ってOEM生産を行なうとともに、カネボウブランド商品の開発・生産を進める。(9月27日 カネボウフーズプレスリリース)

TECHNOLOGY UPDATES

森永乳業、乳由来のたんぱく質「ラクトフェリン」の抗菌作用などに関する研究成果を発表

森永乳業は、IDF(The International Dairy Federation:国際酪農連盟)ワールドデューリーサミット(開催日:2005年9月17~22日、開催場所:カナダ バンクーバー)にて、乳由来のたんぱく質「ラクトフェリン」に関するこれまでの研究成果を発表する。同サミットでは、ラクトフェリンの抗菌作用およびラクトフェリン経口摂取により誘導される感染防御、免疫賦活効果について、臨床研究の結果も含めて概説する。(9月16日 森永乳業プレスリリース)

カネボウフーズ、甘栗の皮からポリフェノールを高濃度で抽出、血糖値抑制効果を確認

カネボウフーズ(株)食品研究所では、栗の渋皮や鬼皮の中に僅かに含まれるポリフェノールに着目し、その抽出方法の検討と抽出物の機能性評価を重ねてきた。栗の皮(鬼皮、渋皮)から、プロアントシアニジンを中心とするポリフェノールを高濃度で抽出することに成功し、その抽出物粉末に血糖値抑制効果があることを確認した。栗の皮にポリフェノールが含まれていることは以前から知られていたが、栗皮の成分の殆どが繊維質であり、有用なポリフェノールの含有率は3~4%程度と僅かだ。栗から効率よくプロアントシアニジン抽出する技術により、約80%までポリフェノールの濃度を高めた。この栗皮抽出物粉末は、血糖値の上昇に関与する α -グルコシダーゼの阻害活性試験において、グアバ葉抽出物よりも高い

阻害活性を有することが認められた。また、マウスを用いた動物実験においても、血糖値抑制効果が確認された。(9月27日 カネボウフーズプレスリリース)

COMPANY NEWS

ヤクルト、ベルギー・ゲント市のヨーロッパ研究所「YHER」で本格的な研究活動を開始

株式会社ヤクルト本社では、2005年5月に、ベルギー王国ゲント市にヤクルト本社ヨーロッパ研究所(Yakult Honsha European Research Center For Microbiology ESV、以下YHERと略)を設立し、研究体制確立のため研究機器類等の整備を行ってきた。この度、その準備が整ったので本格的な研究活動を開始する。同研究所では、(1)ヨーロッパでの研究基盤の確立、(2)ヨーロッパ人を対象とした腸内フローラの研究、(3)今後の国際事業発展に向けた科学的データの蓄積を目的として研究を行なう。(9月20日 ヤクルト本社プレスリリース)

日清オイリオグループ 発芽大豆豆乳飲料で単品通販へ参入

日清オイリオグループは、同社が開発した「濃厚～発芽大豆」の単品通販を開始し、豆乳市場での市場シェア2%の獲得を目指す。同商品は、「発芽」という工程を入れることで他社製品との差別化を図った。青臭さがなくて飲みやすく、ギャバ(γ-アミノ酪酸)を豊富に含む。(9月22日 日本流通産業新聞)

大正製薬と東洋新薬が健康食品の開発・受託製造の合併会社を設立

大正製薬は、東洋新薬と合併で、健康食品や医薬部外品等の開発・受託製造を行なう会社(大正アクティブヘルス株式会社)を設立することに合意した。大正製薬は、大衆薬市場の縮小や規制緩和に伴う流通構造の変化などにより、かつてない厳しい市場環境に直面しており、従来の医薬品・食品の垣根を越えた競争に対応し、新たな着想・視点で健康関連市場における成長機会を取り込む必要があると判断した。そのような中で、より魅力的な商品を開発し、早期に市場に投入するために、研究開発力・技術力を持つ東洋新薬と合併会社を設立することとなった。この合併会社の設立を通して、健康食品等の新製品開発をさらにスピードアップさせていくと同時に、生活者のニーズに基づく製品を継続して発売する体制を強化する。(9月27日 大正製薬プレスリリース)

ヤクルト、中国・北京市に「北京ヤクルト販売」を12月設置

株式会社ヤクルト本社では、中国でのヤクルト事業を統括管理する中国ヤクルトの下に、北京ヤクルト販売を設置(2005年12月に設立)し、首都北京市およびその周辺でのヤクルトの販売を開始する(2006年1月予定)。ヤクルトの中国での事業展開は、2002年6月に広州ヤクルトでヤクルトの製造販売を開始したことに始まる。現在では、広州ヤクルトが広州市内を中心に広東省内で、上海ヤクルトが上海市内を中心に事業を展開している。また2005年4月には、中国での迅速な事業展開を図るために、統括管理会社である中国ヤクルトを設立し、巨大な中国市場における機動的かつ迅速な事業展開を図っている。(9月28日 ヤクルト本社プレスリリース)